



2020年3月期 決算短信(日本基準)(連結)

2020年5月20日

上場会社名 フジ日本精糖株式会社
 コード番号 2114 URL <https://www.fnsugar.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 櫻田 誠司

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部本部長 (氏名) 吉水 あつ子

TEL 03-3667-7811

定時株主総会開催予定日 2020年6月23日

配当支払開始予定日

2020年6月8日

有価証券報告書提出予定日 2020年6月23日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期の連結業績(2019年4月1日～2020年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期	18,958	3.4	1,491	10.5	1,644	4.5	1,197	248.0
2019年3月期	19,634	1.1	1,349	45.2	1,573	28.4	344	56.7

(注) 包括利益 2020年3月期 1,022百万円 (%) 2019年3月期 288百万円 (%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2020年3月期	44.58		7.2	7.5	7.9
2019年3月期	12.81		2.1	6.9	6.9

(参考) 持分法投資損益 2020年3月期 111百万円 2019年3月期 108百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期	21,490	16,853	78.9	631.77
2019年3月期	22,162	16,209	73.6	607.19

(参考) 自己資本 2020年3月期 16,964百万円 2019年3月期 16,304百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年3月期	749	901	576	2,938
2019年3月期	1,219	565	807	3,673

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2019年3月期		0.00		11.00	11.00	295	85.9	1.8
2020年3月期		0.00		11.00	11.00	295	24.7	1.8
2021年3月期(予想)		0.00		11.00	11.00		32.8	

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,000	0.2	1,150	22.9	1,300	21.0	900	24.8	33.52

注記事項

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 以外の会計方針の変更 : 無
 会計上の見積りの変更 : 有
 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期	29,748,200 株	2019年3月期	29,748,200 株
期末自己株式数	2020年3月期	2,896,020 株	2019年3月期	2,895,956 株
期中平均株式数	2020年3月期	26,852,234 株	2019年3月期	26,852,323 株

(参考)個別業績の概要

2020年3月期の個別業績(2019年4月1日～2020年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期	12,647	1.8	1,225	5.0	1,475	2.9	1,093	
2019年3月期	12,883	5.2	1,289	33.3	1,519	24.6	460	

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期	40.71	
2019年3月期	17.16	

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期	18,387	15,538	84.5	578.67
2019年3月期	18,725	14,942	79.8	556.46

(参考) 自己資本 2020年3月期 15,538百万円 2019年3月期 14,942百万円

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注意事項については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結貸借対照表	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	7
(3) 連結株主資本等変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(会計方針の変更)	13
(会計上の見積りの変更)	13
(セグメント情報等)	14
(1株当たり情報)	17
(重要な後発事象)	17

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、世界的な通商問題に加え、消費増税後の個人消費が低迷し、さらに新型コロナウイルス感染症の拡大により国内外の経済が大きく影響を受け、景気及び先行きは、さらに不透明な状況となっております。

精糖業界においては、消費が減少傾向にあるなか、加糖調製品や異性化糖及び他の甘味料の浸食などにより、厳しい販売状況が続いております。

このような経済環境下、当社グループは、品質管理の徹底を図り、顧客満足度を高めるなか、砂糖は製品の安定供給に取り組んでまいりました。また、機能性素材では高付加価値提案型の販売活動に取り組んでまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の当社グループの業績は、売上高18,958百万円（前年同期比3.4%減）、営業利益1,491百万円（同10.5%増）、経常利益1,644百万円（同4.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,197百万円（同248.0%増）の減収増益となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①精糖

精糖事業につきましては、海外原糖市況は、ニューヨーク先物市場が期初12.53セント（1ポンド当たり）で始まり、タイ・インドをはじめとする主要生産国での減産を受け、足元の世界需給がひっ迫するとの観測から上昇すると、2月12日に15.90セントを付けました。しかし、その後、新型コロナウイルスの世界的な蔓延拡大によりリスクオフの動きに転じると急落し、10.42セントまで下げて期末を迎えました。

一方、国内製品市況は期初東京現物相場（日本経済新聞掲載）187円～188円（上白大袋1キログラム当たり）で始まり、そのまま期末を迎えました。

製品の荷動きについては、期初は5月のゴールデンウィークが10連休となったことから4月は順調に推移したものの、その後は梅雨寒が長引いたこと、冬場の暖冬傾向や加糖調製品の浸食により飲料関係や菓子関係を中心に減少となり、更に年明けには新型コロナウイルスの感染症拡大の影響から消費が落ち込み、販売数量は前期を大きく下回りました。

しかしながら、堅実で安定した原料糖仕入れを図り、更なるコスト削減に努めた結果、売上高10,727百万円（前年同期比4.0%減）、営業利益1,579百万円（同2.2%増）の減収増益となりました。

②機能性素材

機能性素材事業につきましては、機能性食品素材「イヌリン」は、当社製品を使用した機能性表示食品が大手ユーザーで採用されてきたことに加え、低糖質素材及びたんぱく質摂取強化素材として評価され、販売数量は前期比で増加しました。

海外においては、タイ国及び周辺国での販売に注力した結果、粉末乳製品、豆乳飲料等に食物繊維強化素材として採用され、販売数量を大幅に伸ばすことができました。

切花活力剤「キープフラワー」は、切花消費の不振の影響がありましたが、引き続きBS放送でのテレビCMによるブランド強化を図るほか、業務用新製品を投入するなど販売に力を入れた結果、増収となりました。

連結子会社ユニテックフーズ株式会社におきましては、主力商品であるゼラチンの販売数量の減少があり、他商品の販売に注力しましたが、減収となりました。

以上の結果、機能性素材は売上高7,432百万円（前年同期比2.5%減）、営業利益320百万円（同50.0%増）の減収増益となりました。

③不動産

不動産事業につきましては、売上高601百万円（前年同期比2.2%減）、営業利益512百万円（同5.9%減）の減収減益となりました。

④その他食品

その他食品事業につきましては、タイでの食品関連事業が中心であります。業績は売上高198百万円（前年同期比13.4%減）、営業損失56百万円（前年同期 営業損失91百万円）の減収増益となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ3.0%減少し21,490百万円となりました。当連結会計年度における各財政状態の変動状況は、次のとおりであります。

①資産

資産につきましては、流動資産で前連結会計年度末に比べ10.4%減少し9,479百万円となりました。これは主として現金及び預金の減少等によるものであります。

また、固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ3.7%増加し12,011百万円となりました。これは主として投資その他の資産「その他」に含まれる長期貸付金の増加等によるものであります。

②負債

負債につきましては、流動負債で前連結会計年度末に比べ26.1%減少し3,152百万円となりました。これは主として買掛金の減少等によるものであります。

また、固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ11.9%減少し1,484百万円となりました。これは主として長期借入金の減少等によるものであります。

③純資産

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ4.0%増加し16,853百万円となりました。これは主として利益剰余金の増加等によるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ734百万円減少し、2,938百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、749百万円（前年同期比38.5%減）となりました。これは主として税金等調整前当期純利益の計上、たな卸資産の減少等によるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、901百万円（前年同期565百万円収入）となりました。これは主として投資有価証券の取得による支出等によるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、576百万円（前年同期比28.6%減）となりました。これは主として配当金の支払及び長期借入金の返済による支出等によるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
自己資本比率	69.7	72.2	72.6	73.6	78.9
時価ベースの自己資本比率	53.7	67.4	77.6	69.8	62.6
キャッシュ・フロー対有利子負債比率（年）	1.8	—	1.4	1.6	2.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ	44.1	—	55.2	46.7	36.1

(注) 自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

※1. 各指標はいずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

2. 株式時価総額は、期末株価終値×発行済株式数（自己株式控除後）により計算しております。

3. 営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

4. 2017年3月期のキャッシュ・フロー対有利子負債比率及びインタレスト・カバレッジ・レシオについては営業キャッシュ・フローがマイナスのため記載しておりません。

(4) 今後の見通し

次期の見通しとしましては、新型コロナウイルスの感染拡大により、予断を許さない状況のなか、当社グループは、引き続き製品の安定供給及び品質管理を重要課題として取り組むとともに、タイ連結子会社を中心に海外事業の推進に注力してまいります。

精糖事業につきましては、引き続き営業体制の強化を図り、顧客重視と効率的な販売に努めてまいります。加糖調製品や他甘味料の浸食、少子高齢化などによる砂糖の消費減少傾向に歯止めが掛からない状況のなか、新型コロナウイルス感染拡大の終息が不透明であることもあり、厳しい販売環境が続くことが予想されるため、堅実で安定した原材料仕入れを図り、更なるコスト削減に努めてまいります。

機能性素材事業につきましては、イヌリンの国内販売では新規の機能性食品の登録を目指し、引き続き幅広い分野への拡販を行ってまいります。また、海外販売では、食物繊維の需要が活発なアジア各国への販売増に取り組んでいきます。さらに各部門においてもコスト削減に努めてまいります。

不動産事業につきましては、自社所有賃貸物件の維持管理による安定収益の確保に努めてまいります。

以上の結果、2021年3月期の連結業績予想は、売上高19,000百万円（前年同期比0.2%増）、営業利益1,150百万円（同22.9%減）、経常利益1,300百万円（同21.0%減）、親会社株主に帰属する当期純利益900百万円（同24.8%減）の増収減益を見込んでおります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループでは、連結財務諸表の期間比較及び企業間比較の可能性を勘案し、日本基準を適用して連結財務諸表を作成しております。なお、今後も日本基準の改定にも適宜対応しながら、国内外の情勢を見極め、状況の変化に適切に対応できるようIFRSの任意適用に関する検討は行ってまいります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,373,473	2,638,735
受取手形及び売掛金	2,702,826	2,569,323
有価証券	300,000	300,000
商品及び製品	2,118,084	2,115,006
仕掛品	139,172	142,800
原材料及び貯蔵品	909,946	686,590
その他	1,035,346	1,029,209
貸倒引当金	△1,964	△2,406
流動資産合計	10,576,885	9,479,259
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	466,637	424,033
機械装置及び運搬具(純額)	116,644	120,163
土地	2,527,435	2,527,435
建設仮勘定	-	5,380
その他(純額)	89,643	74,088
有形固定資産合計	3,200,360	3,151,100
無形固定資産		
のれん	145,853	37,864
その他	128,231	129,230
無形固定資産合計	274,084	167,094
投資その他の資産		
投資有価証券	6,163,389	6,305,030
長期貸付金	1,814	341,736
関係会社長期貸付金	1,689,800	1,757,700
その他	279,092	313,502
貸倒引当金	△22,594	△24,430
投資その他の資産合計	8,111,502	8,693,538
固定資産合計	11,585,948	12,011,734
資産合計	22,162,833	21,490,994

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,461,566	977,866
短期借入金	1,426,020	1,315,989
未払法人税等	500,264	96,424
未払消費税等	92,007	17,691
賞与引当金	114,408	116,663
その他	673,113	627,678
流動負債合計	4,267,380	3,152,314
固定負債		
長期借入金	466,082	294,859
繰延税金負債	626,590	545,944
退職給付に係る負債	22,670	53,268
資産除去債務	66,652	67,328
その他	503,778	523,361
固定負債合計	1,685,773	1,484,762
負債合計	5,953,153	4,637,076
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,524,460	1,524,460
資本剰余金	2,049,343	2,049,343
利益剰余金	11,724,125	12,557,481
自己株式	△717,126	△717,161
株主資本合計	14,580,802	15,414,123
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,727,271	1,525,792
為替換算調整勘定	41,938	104,603
退職給付に係る調整累計額	△45,575	△80,165
その他の包括利益累計額合計	1,723,634	1,550,229
非支配株主持分	△94,757	△110,434
純資産合計	16,209,679	16,853,917
負債純資産合計	22,162,833	21,490,994

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	19,634,486	18,958,964
売上原価	14,549,306	13,698,310
売上総利益	5,085,179	5,260,653
販売費及び一般管理費	3,736,164	3,769,420
営業利益	1,349,015	1,491,233
営業外収益		
受取利息	27,303	32,812
受取配当金	76,005	76,125
為替差益	28,864	-
持分法による投資利益	108,917	111,255
その他	35,311	23,029
営業外収益合計	276,403	243,222
営業外費用		
支払利息	31,456	23,000
為替差損	-	58,654
貸倒引当金繰入額	6,368	394
その他	13,702	7,790
営業外費用合計	51,527	89,839
経常利益	1,573,892	1,644,616
特別利益		
投資有価証券売却益	589,638	12
特別利益合計	589,638	12
特別損失		
固定資産除却損	1,937	-
減損損失	1,151,835	-
投資有価証券売却損	3,267	15,341
投資有価証券評価損	21,175	-
特別損失合計	1,178,216	15,341
税金等調整前当期純利益	985,314	1,629,286
法人税、住民税及び事業税	672,158	416,415
法人税等調整額	21,858	24,182
法人税等合計	694,017	440,597
当期純利益	291,297	1,188,689
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△52,721	△8,391
親会社株主に帰属する当期純利益	344,019	1,197,080

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
当期純利益	291,297	1,188,689
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△528,378	△201,479
為替換算調整勘定	△35,943	70,056
退職給付に係る調整額	△15,020	△34,590
その他の包括利益合計	△579,341	△166,013
包括利益	△288,044	1,022,675
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△233,208	1,025,936
非支配株主に係る包括利益	△54,835	△3,260

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,524,460	2,049,343	11,743,913	△717,035	14,600,682
会計方針の変更による累積的影響額					—
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,524,460	2,049,343	11,743,913	△717,035	14,600,682
当期変動額					
剰余金の配当			△295,376		△295,376
親会社株主に帰属する当期純利益			344,019		344,019
連結範囲の変動			△68,431		△68,431
自己株式の取得				△90	△90
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	△19,788	△90	△19,879
当期末残高	1,524,460	2,049,343	11,724,125	△717,126	14,580,802

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	2,255,650	73,507	△30,555	2,298,602	△41,727	16,857,556
会計方針の変更による累積的影響額						—
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,255,650	73,507	△30,555	2,298,602	△41,727	16,857,556
当期変動額						
剰余金の配当						△295,376
親会社株主に帰属する当期純利益						344,019
連結範囲の変動						△68,431
自己株式の取得						△90
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△528,378	△31,569	△15,020	△574,967	△53,029	△627,997
当期変動額合計	△528,378	△31,569	△15,020	△574,967	△53,029	△647,876
当期末残高	1,727,271	41,938	△45,575	1,723,634	△94,757	16,209,679

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,524,460	2,049,343	11,724,125	△717,126	14,580,802
会計方針の変更による累積的影響額			△68,350		△68,350
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,524,460	2,049,343	11,655,775	△717,126	14,512,452
当期変動額					
剰余金の配当			△295,374		△295,374
親会社株主に帰属する当期純利益			1,197,080		1,197,080
連結範囲の変動					—
自己株式の取得				△35	△35
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	901,706	△35	901,670
当期末残高	1,524,460	2,049,343	12,557,481	△717,161	15,414,123

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,727,271	41,938	△45,575	1,723,634	△94,757	16,209,679
会計方針の変更による累積的影響額						△68,350
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,727,271	41,938	△45,575	1,723,634	△94,757	16,141,329
当期変動額						
剰余金の配当						△295,374
親会社株主に帰属する当期純利益						1,197,080
連結範囲の変動						—
自己株式の取得						△35
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△201,479	62,664	△34,590	△173,405	△15,677	△189,082
当期変動額合計	△201,479	62,664	△34,590	△173,405	△15,677	712,587
当期末残高	1,525,792	104,603	△80,165	1,550,229	△110,434	16,853,917

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	985,314	1,629,286
減価償却費	205,123	134,290
のれん償却額	107,989	107,989
減損損失	1,151,835	-
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3,714	2,255
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	4,572	2,300
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△17,205	△19,288
受取利息及び受取配当金	△103,309	△108,937
支払利息	31,456	23,000
為替差損益 (△は益)	△28,864	58,654
持分法による投資損益 (△は益)	△108,917	△111,255
投資有価証券売却損益 (△は益)	△586,371	15,329
投資有価証券評価損益 (△は益)	21,175	-
固定資産除却損	1,937	-
売上債権の増減額 (△は増加)	141,543	129,869
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△272,753	215,740
未収入金の増減額 (△は増加)	34,189	3,376
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	5,408	△6,170
仕入債務の増減額 (△は減少)	24,850	△479,476
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△83,524	△74,315
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	48,832	△47,899
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△28,258	△20,027
その他	△10,265	△791
小計	1,521,042	1,453,930
利息及び配当金の受取額	122,610	121,820
利息の支払額	△26,123	△20,762
法人税等の支払額	△398,453	△805,129
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,219,075	749,858

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の売却及び償還による収入	737,173	84,896
投資有価証券の取得による支出	△38,579	△439,199
有形固定資産の取得による支出	△148,769	△90,077
有形固定資産の売却による収入	128	-
無形固定資産の取得による支出	△42,931	△26,821
長期貸付金の回収による収入	898,550	1,075,200
長期貸付けによる支出	△840,000	△1,470,000
差入保証金の差入による支出	-	△35,875
投資活動によるキャッシュ・フロー	565,570	△901,877
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△18,937	12,250
長期借入れによる収入	210,000	6,020
長期借入金の返済による支出	△703,164	△278,878
自己株式の取得による支出	△90	△35
リース債務の返済による支出	-	△20,835
配当金の支払額	△295,376	△295,374
財務活動によるキャッシュ・フロー	△807,569	△576,854
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,371	△5,863
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	980,447	△734,737
現金及び現金同等物の期首残高	2,643,407	3,673,473
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	49,617	-
現金及び現金同等物の期末残高	3,673,473	2,938,735

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(IFRS 第16号「リース」)

国際財務報告基準を適用している子会社は、当連結会計年度より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従っており、会計方針の変更による累積的影響額を当連結会計年度の期首の利益剰余金に計上しております。

この結果、当連結会計期間末の「有形固定資産」が519千円増加し、流動負債の「その他」が19,966千円及び固定負債の「その他」が40,642千円増加しております。当連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高は68,350千円減少しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書は、営業活動によるキャッシュ・フローの支出が20,835千円減少し、財務活動によるキャッシュ・フローの支出が20,835千円増加しております。

(会計上の見積りの変更)

当社が保有する建物、構築物等は、2020年9月に本社建替及び移転を予定していることから、当連結会計年度において、本社建替及び移転に伴い利用不能となる資産について、耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ12,503千円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、各拠点に製品・サービス別の事業本部を置き、各事業本部は、取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業本部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「精糖」、「機能性素材」、「不動産」及び「その他食品」の4つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントを構成する主要製品及びサービスは以下のとおりであります。

報告セグメント	主要製品及びサービス
精糖	精製糖、液糖、砂糖関連製品等
機能性素材	食品添加物、切花活力剤、機能性食品素材、天然添加物素材等
不動産	不動産賃貸等
その他食品	製パン等

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	連結 財務諸表 計上額 (注2)
	精糖	機能性 素材	不動産	その他 食品	計		
売上高							
外部顧客への売上高	11,171,506	7,619,228	614,796	228,955	19,634,486	—	19,634,486
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,706	2,736	5,104	21,260	35,808	△35,808	—
計	11,178,212	7,621,964	619,901	250,216	19,670,294	△35,808	19,634,486
セグメント利益 又は損失(△)	1,545,876	213,698	544,509	△91,107	2,212,977	△863,961	1,349,015
セグメント資産	9,861,183	4,571,768	1,881,375	137,362	16,451,689	5,711,144	22,162,833
その他の項目							
減価償却費	51,894	130,327	12,799	10,101	205,123	—	205,123
減損損失	—	991,515	—	160,320	1,151,835	—	1,151,835
のれんの償却額	—	107,989	—	—	107,989	—	107,989
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	30,298	105,689	7,497	3,055	146,541	—	146,541

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△863,961千円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。
なお、全社費用は、報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門及び研究開発に係る一般管理費であります。
 - (2) セグメント資産の調整額5,711,144千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、主なものは、親会社での余資運用資金（現金及び預金、有価証券）、長期投資資金（投資有価証券）等であります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	連結 財務諸表 計上額 (注2)
	精糖	機能性 素材	不動産	その他 食品	計		
売上高							
外部顧客への売上高	10,727,360	7,432,158	601,266	198,179	18,958,964	—	18,958,964
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,688	—	6,796	21,453	36,938	△36,938	—
計	10,736,049	7,432,158	608,063	219,632	18,995,903	△36,938	18,958,964
セグメント利益 又は損失(△)	1,579,421	320,605	512,646	△56,815	2,355,857	△864,624	1,491,233
セグメント資産	10,028,683	4,113,316	1,855,409	123,926	16,121,336	5,369,658	21,490,994
その他の項目							
減価償却費	48,534	61,024	23,947	783	134,290	—	134,290
減損損失	—	—	—	—	—	—	—
のれんの償却額	—	107,989	—	—	107,989	—	107,989
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	9,636	69,945	—	7,957	87,538	—	87,538

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△864,624千円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。
 なお、全社費用は、報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門及び研究開発に係る一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額5,369,658千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、主なものは、親会社での余資運用資金(現金及び預金、有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)等であります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位:千円)

日本	タイ	その他	合計
3,183,725	15,887	748	3,200,360

3 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
双日株式会社	8,681,781	精糖及び機能性素材

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	タイ	その他	合計
3,098,960	51,246	893	3,151,100

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
双日株式会社	8,159,687	精糖及び機能性素材

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					全社・消去	合計額
	精糖	機能性素材	不動産	その他食品	計		
当期末残高	—	145,853	—	—	145,853	—	145,853

(注) のれんの償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					全社・消去	合計額
	精糖	機能性素材	不動産	その他食品	計		
当期末残高	—	37,864	—	—	37,864	—	37,864

(注) のれんの償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	607.19円	631.77円
1株当たり当期純利益金額	12.81円	44.58円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
(算定上の基礎)		
純資産の部の合計額(千円)	16,209,679	16,853,917
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	△94,757	△110,434
(うち非支配株主持分(千円))	(△94,757)	(△110,434)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	16,304,437	16,964,352
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(千株)	26,852	26,852

項目	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	344,019	1,197,080
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	344,019	1,197,080
普通株式の期中平均株式数(千株)	26,852	26,852

(重要な後発事象)

該当事項はありません。